黒井峯遺跡（渋川市）

黒井峯遺跡の場所

「日本のポンペイ　史跡　黒井峯遺跡」/渋川市教育委員会　より

緑色の範囲が黒井峯遺跡

黒井峯遺跡現地説明板より

緑色の範囲が黒井峯遺跡

黒井峯遺跡現地説明板より

榛名山二ツ岳噴火想像図（Hr－FA）

渋川市北橘総合支所（渋川市） 展示資料より

榛名山の噴火

榛名山二ツ岳は６世紀代に２度の噴火を起こしました。１度目は６世紀初頭、２度目は６世紀中頃のことです。渋川市内では、この噴火による火山灰や火砕流、軽石、あるいは噴火に伴って起きた洪水に埋もれた遺跡が数多く見つかっています。

■榛名山二ツ岳火山灰層（Hr－FA）と遺跡

６世紀初頭に噴火した榛名山二ツ岳の火山灰で、細粒の火山灰、火砕流堆積物、軽石からなる15層のユニットが確認されています。

この噴火による火砕流は、榛名山北東麓から東麓にかけての広い範囲を襲ったことがわかっていて、1991年に噴火した雲仙普賢岳の火砕流より激しい噴火だったと考えられています。

渋川市内ではこの噴火により中筋遺跡の集落が壊滅し、市内各所に広く分布した水田や畠も埋没してしまいました。また、火山灰下からは坂下町古墳群、東町古墳や空沢遺跡の古墳群など多くの古墳が見つかっています。

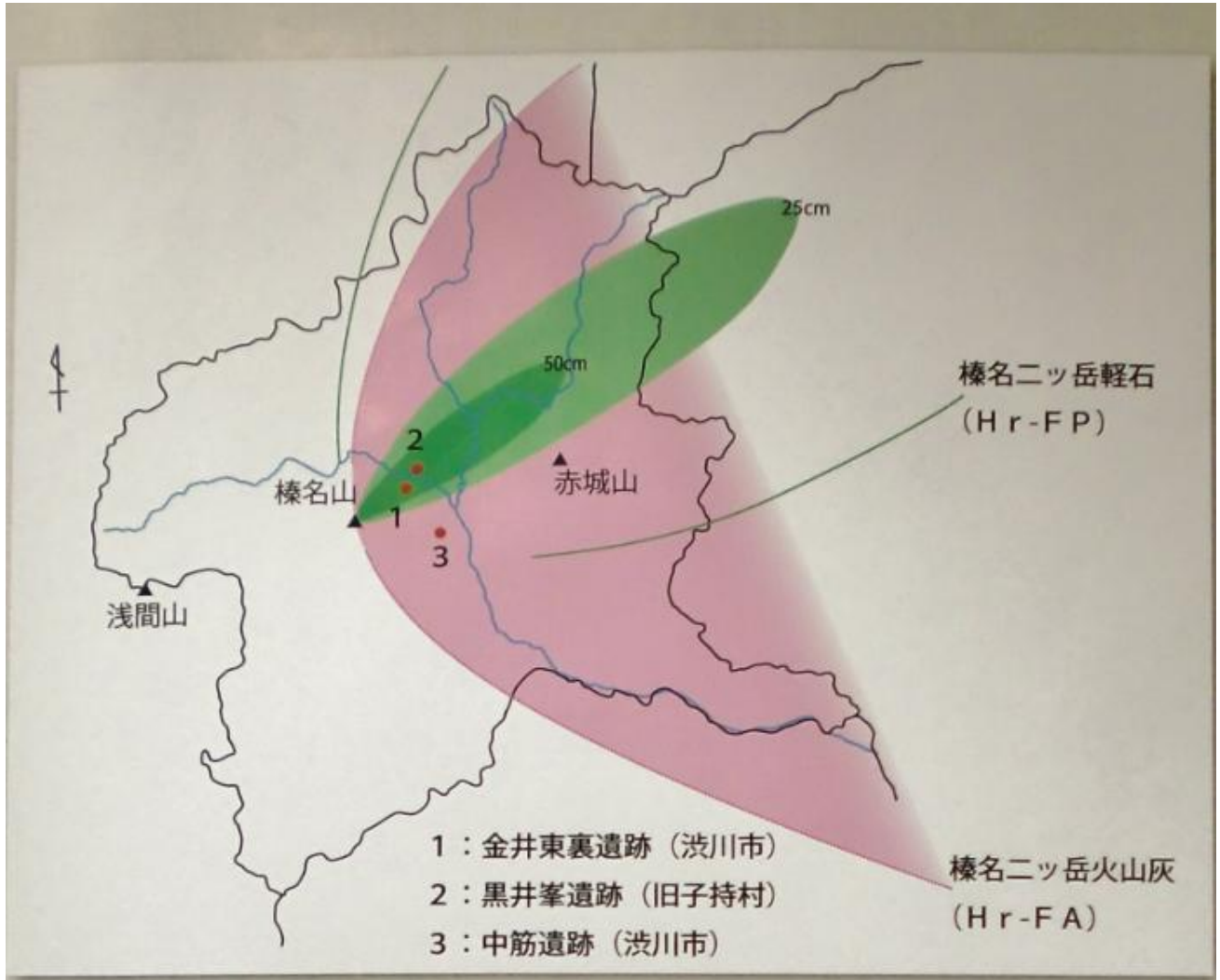
今回、金井東裏遺跡で見つかった「甲装着人骨」も火砕流の猛威にさらされた被災の一端を垣間見せてくれました。

■榛名山二ツ岳軽石層（Hr－FP）と遺跡

６世紀中頃に噴火した榛名山二ツ岳の軽石で、おもに軽石からなる19層のユニットが確認されています。

渋川市内ではこの噴火により黒井峯遺跡の集落が壊滅し、火山灰降下の時と同様に市内各所に広く分布した水田や畠も埋没してしまいました。また、中ノ峯古墳や宇津野有瀬遺跡古墳群など、軽石に埋もれた多くの古墳が見つかっています。

渋川市北橘総合支所（渋川市） 展示資料より



榛名山二ツ岳火山噴出物の降下範囲図

※この図面は群馬県埋蔵文化財調査事業団から提供を受けました。

渋川市北橘総合支所（渋川市） 展示資料より

この辺り一帯が黒井峯遺跡/南西側から北東方向を見たところ/正面中央遠方に標柱と説明板が立っている

左手を見たところ/こちらの正面やや右手にも説明板が立っている

右手を見たところ/左手の建物は子持中学校

これが左手に見えた説明板

黒井峯遺跡
黒井峯遺跡は、今から約1400年前の古墳時代に榛名山二ツ岳の爆発により噴き上げられた大量の軽石で一瞬にして埋もれた廃墟の村です。
数時間降り続いた軽石は厚さ2mにも達し、住居も道も畠もすっぽり覆った為、当時の村の様子や村人の暮らしぶりが発掘調査により詳しく解明されました。黒井峯遺跡は日本のポンペイとも言われています。
環境省　群馬県

そこから右手を見たところ/正面の建物が子持中学校/右手前に標柱と説明板が立っている

これがその標柱と説明板/ここが遺跡エリアの中心点のようだ

国指定
史跡
黒井峯遺跡
国指定
史跡
黒井峯遺跡

遠方に見えるのが榛名山二ツ岳

アップで見たところ
↓

説明板

遺構配置図

「日本のポンペイ　史跡　黒井峯遺跡」/渋川市教育委員会　より

「日本のポンペイ　史跡　黒井峯遺跡」/渋川市教育委員会　より

黒井峯遺跡

この遺跡は古墳時代後期（六世紀中頃）に榛名山の爆発によって軽石で埋没した災害遺跡である。発掘調査は昭和 57 年から昭和 63 年まで 5 回行われ、軽石災害の生々しい状況と住居をはじめとする建物群が残されていた。このことから、災害直前（6 月頃）のムラの景観や人々の暮らしを正確に知ることが出来る遺跡として評価を受け、平成 5 年 4 月に国の史跡となった。遺跡の広さは、子持中学校を含む台地の平坦部と北側の谷を含めて約 14 万平方メートルが指定範囲となっている。

榛名山の火山爆発は古墳時代後期に二度の大爆発を起こし、そのたびごとに遺跡へ大きな災害をもたらしている。一回目は六世紀初めで、長崎県雲仙普賢岳でみられた高温の砂風に似た火砕流が周辺一帯を何度も襲い、焼け野原にしてしまった。発掘調査で判明したムラ跡は、この火砕流災害後に作られたムラである。ムラは数十年続いたが、二回目の大爆発（六世紀中頃）で2メートルにも達する軽石層が建物や田畑などすべてを覆いつくしてしまった。この災害の後はムラが再建されることはなく、埋もれたまま現在に至っている。

黒井峯遺跡現地説明板より

調査によって判明した事実は、軽石堆積層の中に建物が閉じ込められていたことである。また、厚い軽石層に保護された古墳時代の地表面には畠、水田、道、境界、水場、樹木の跡など、当時の人々の生活のありとあらゆる痕跡が残されていた。ムラは竪穴住居一棟と垣で囲まれた建物群（平地式住居、高床式倉庫、作業小屋、家畜小屋などが含まれ、7～10 棟程度）が一単位で、この中に数家族が住んでいたとみられる。黒井峯遺跡には、こうしたまとまりが 8～10 単位存在している。日々の生活は牛馬の放牧と飼育を行いつつ、畠や水田耕作を同時に行う複合作業と推定され、高度に発達した農業であることが判明した。

黒井峯遺跡現地説明板より

渋川市北橘総合支所（渋川市） 展示資料より

渋川市北橘総合支所（渋川市） 展示資料より

参考ホームページ

http://www.gunmaibun.org/remain/guide/hokumo/kuroimine.html

http://nordeq.web.fc2.com/shiseki/kuroi.html

http://kofunnomori.web.fc2.com/gunma/komochi/kuro.htm

http://blog.goo.ne.jp/hanako1033/e/c5085dd620216e06efa4882ff12a3090

http://gpnotebook.gunmablog.net/e240660.html

http://tigerdream-no.blog.jp/archives/8666638.html

1208
▲雨乞山
931
横堀
小野子
白水GC
上白井
17
おのこ
中郷
敷島
赤城ＩＣ
北牧
353
祖母島
渋川スカイランドパーク
川島
上越線
こもち
伊香保国際CC
北橋町上南室
温泉
伊香保CC
渋川
北橋町小室
渋川市
渋川
上越
茂
3 km
(C)Yahoo Japan,(C)ZENRIN

参考資料

2. 榛名山の噴火

榛名山の噴火は古くは３０万年前からはじまり幾多の大規模な噴火を繰り返し、最も新しい噴火が古墳時代の５～６世紀の３回の活動が確認されています。特に６世紀の噴火は激しく、山麓域では火砕流・土石流など引き起し当時の環境を大きく変えてしまったことが明らかになってきています。。

時代	噴火名称	略号	爆発と被害状況
５世紀代	榛名有馬テフラ	Ｈｒ－ＡＡ	小規模爆発。被害軽微。
６世紀初め	榛名渋川テフラ	Ｈｒ－Ｓ	15 回の爆発。山麓域被害甚大。
６世紀中ごろ	榛名伊香保テフラ	Ｈｒ－Ｉ	25 回以上の爆発。山麓から北東方向被害大。

※テフラ・・・爆発に伴う噴出物全てを指す。火山灰、軽石はこの中に含まれる。

大東文化大学平成26年春/シリーズ講座　郷土の歴史を学ぼう/古墳時代のまつりと延喜式内社/黒井峯遺跡のまつり　資料より

黒井峯遺跡

国指定史跡。榛名山より北東約 10 km離れ吾妻川の対岸に位置し、昭和 60 年から 63 年にかけて発掘調査が実施されました。6 世紀中ごろの噴火に伴う降下軽石で埋没。遺構は燃えずに朽ちた痕跡が軽石層中にあり、家屋の壁、落盤途上の屋根などがあるほか、軽石直下には噴火直前時の地表面が無傷にあり古墳時代人が踏みつけた跡がそのままのこされている。このほか集落の内外には畠、水田、泉など様々な遺構がありムラの様子が明らかになる。ムラの 1 世帯は竪穴住居に垣根で囲った平地建物（住居、釜屋、作業小屋）、家畜小屋、高床式建物（倉庫）、祭祀場などがある。災害時には竪穴住居内に住んでいた形跡がなく、もっぱら平地住居に住んでいたとはんだんされます。家畜小屋は馬が飼われたものとみられます。

大東文化大学平成26年春/シリーズ講座　郷土の歴史を学ぼう/古墳時代のまつりと延喜式内社/黒井峯遺跡のまつり　資料より

	金井東裏遺跡 東麓末端 8 km	中筋遺跡 東麓末端 8.5 km	黒井峯遺跡 対岸　12 km
5 世紀後半	‖	‖	‖
6 世紀初めの噴火	●		
6 世紀前半			‖
6 世紀中頃の噴火			●
6 世紀後半			●

● 人の活動痕跡

大東文化大学平成26年春/シリーズ講座　郷土の歴史を学ぼう/古墳時代のまつりと延喜式内社/黒井峯遺跡のまつり　資料より